



大和保夫氏の作品40cm幅はある大作



大和作太郎氏の錦手丸鉢 山水花鳥園



維新の陶工〜大和作太郎と山口焼〜 開催



作太郎の息子 春信氏とおごうさん。窯の前で

また、作太郎生誕160年に因んで、大和作太郎松緑の作品22点、山口焼(万代焼) 19点、須佐焼8点、西浦焼4点、山口萩焼作家協会会員の作品18点と山口萩焼鑑賞と歴史を学ぶ貴重な展示となりました。初日には、美術評論家の木本信昭氏をお迎えして、大和保男氏とのシンポジウムも開催されました。

5月3日(木)〜6日(日)に、山口萩焼の展覧会が菜香亭大広間で開催され、連日多くのお客様が見学に来られました。山口萩焼開祖大和作太郎は、明治23年万代彦七が創業した「山口焼」(万代焼)の職長として萩より招聘され、明治25年に山口宮野村大山路岡に窯を起こしました。作太郎没後、息子の晴信と菜香亭四代目当主、齋藤甲兵衛(おごうさん)五代目当主齋藤清子の父親は親交があり、料亭「祇園菜香亭」では花瓶、火鉢、煎茶器、食器等が使用され「山口焼」のよき理解者であり支援者でもありました。この度、このように縁ある場所での開催となりました。



現場でのエピソードに笑いが絶えなかった会場



床の間、毛利家15代 毛利元昭晩年の書「光風」 NHKドラマ「花燃ゆ」のときには銀姫の息子「興丸」で登場しました。



NHKシニアディレクター 大森洋平氏

6月9日(土)に菜香亭大広間でNHKドラマ番組部シニア・ディレクター時代考証担当の大森洋平氏をお招きして、講演会を開催しました。

大森氏は「軍師官兵衛」「花子とアン」「マッサン」…など、数々のドラマの時代考証をされました。「篤姫」「龍馬伝」などの近年の大河ドラマの制作にも関わっておられ、今回は放送中の「西郷どん」のドラマの舞台裏も織り交ぜながらお話くださいました。こぼれ話としては、時代劇の「洗濯板」はNGで、これは戦後アメリカから入ってきたものだそうです。また、「右肩あがり」という言葉もグラフが使われるようになってからの言葉なので、「うなぎのぼり」と表現を変えたりするそうです。

講演会「NHK大河ドラマ・時代考証のほろ〜」 「西郷どん」が話題の面白くなる〜」開催

西の菜時記

平成30年8月20日発行 第49号 発行元: 山口市菜香亭 指定管理者 特定非営利活動法人 歴史の町山口を甦らせる会



麗しい浴衣姿のおごうさん



写真館で姉妹の記念写真。

菜香亭の5代目で最後の主人だった「おごうさん」こと 齊藤清子さんは、大正6年生まれ。山口高等女学校に通うころには、容姿端麗でマドンナ的存在だったようです。「菜香亭紳士録」には「いつもひとり下校する山口高女の美女がいた。それが菜香亭の愛娘の齊藤清子さんだった。北寮二階の窓からみんなが清ちゃん、清子さんと呼べど反応なし。振り向きもせずに通り過ぎた。…」と、当時を知る人の思い出話に掲載されています。陸上高跳びの選手であり賢くて美しいおごうさん。青春時代のスナップです。

生誕101年おごうさんアルバム



毛利敬親書「格非心」 山口県立博物館蔵

敬親は、世継ぎ候補ではなかったため萩の城下でのびのびとした少年期を過ごしました。1836年の大洪水で城下町の大半が水没したとき、命からがら避難したと伝わっています。そのような民により近い生い立ちが藩政に生かされ、儉約令や弱者救済の措置などにつながったようです。「格非心」(ひしんをただす)とは、自分に間違ったところがあれば正してほしいという意味で、敬親の謙虚な姿勢がよく表れています。一方筆蹟は力強く、情熱を感じさせます。



敬親は美食を求めず、衣服は綿服ですませ、酒は飲まず(人に飲ませるのは好きだった)、婦人に溺れず、欲しい書画も我慢して、禁欲的な生活ぶりだったようです。



欲を制すが名君の道。

参勤交代グルメツアー 開催

7月21日(土)「毛利敬親の参勤交代弁当を食べよう」の企画でお弁当が再現されました。敬親は質素儉約を推奨したように自身も庶民なみの一汁二菜の食事でした。参勤交代弁当もこんにやくや椎茸の煮物、かまぼこ、奈良漬けに大きな握り飯五つという質素なものです。



しにぎわも 氣にかかるは 朝廷のこと



はいからな 言葉も使う 殿様です

明治元年5月、敬親は上京のために、防府から出港しました。その船中で歌を作りました。「朝なぎに、華の浦和を船出して、はしるも早き蒸気船 笠戸、室積、上関、安芸の御手洗あとに見て、讃岐の小富士、小豆島、播磨の灘もやすやすと、さやけき月の夜走りに、バック、ポール、レッキシヨート、潔し。」英語のときの意味はわかりにくいですが、大役を果たし晴ればれとした敬親の心情が伝わってきます。敬親はめまいが持病のようだったという家臣の証言があります。明治4年3月22日、山口城で腹を下しはじめ重体に。27日さらに様態が悪化。めまいを併発して危篤。翌朝亡くなりました。敬親の最後の言葉、「おれはとて逝けぬぜよ。天、余命をおれに10年かせば朝廷のために尽すところがあるが、残念だ。」

平成30年8月20日発行 第49号 発行元: 山口市菜香亭 指定管理者 特定非営利活動法人 歴史の町山口を甦らせる会

西の菜時記